

令和7年度 第1回諫早市認知症対策推進会議要旨

1. 日時：令和7年5月30日（金） 19：00～20：10
2. 場所：健康福祉センター 1階 多目的ホール
3. 内容

(1) 報告

①令和6年度認知症初期集中支援チームの活動実績について

- ・資料1及び当日資料1を用いて説明。令和6年度支援対象者概要について報告

【意見など】 個別の事例についての質疑応答

②令和7年度認知症多職種協働研修の開催について

- ・今年度の研修について説明。

【意見など】

- ・認知症VR体験について、どのような体験ができるVRなのか知りたい。
→VRゴーグルを1人1台ずつ装着し、空間認知障害や幻視などの疑似体験ができるようになっている。認知症の方が自動車を運転するとどのように見えて感じているのか、体感できるようになっている。
- ・グループワークについて、以前はどのようなことを行っていたのか。今年のグループワークについてはどのように検討しているのか。
→令和元年の集合型研修では「自分が認知症だったら」という視点で、グループワークをおこなった。様々な専門職と交えることで、それぞれの考え方や視点の違いなど理解することができた研修になったと思う。今年は、VR体験で感じたことを、認知症の方の支援に生かせることはどのようなことがあるのか事例検討を行いながら共有できればと思っている。
- ・実際に体験できると良い機会になるのではないかと思う。
- ・研修対象者の中で薬局受付職員が上がっているが、その趣旨を聞きたい。
→薬局や病院の受付では認知機能が低下している方と関わり、認知症の症状に気付くことがあるため対象とさせてもらっている。

(2) 意見交換

令和7年度認知症月間における啓発活動について

- ・別紙参照

意見交換

1. 令和7年度認知症月間における啓発活動について

(1) グループワーク

「50代～60代を対象に所属団体や個人でできる取り組み」

<認知症月間での取り組み>

- 9月の受診に来られた時などに、声掛けをすることなどは出来る。
- 地域の団体において、9月の認知症月間ではのんのこまつりの時や諫早駅で街頭活動している。
- 地域の団体において、6月から9月に公民館講座、講演の予定があるのでその時にチラシを配れると思っている。
- 病気と普通の境目、ポイントを絞って、こういう時は相談に行こうと身近な相談窓口、包括の存在を知ってもらうことをロコミとして広げていくための方法を月間でやっていけたら。
- 旗・横断幕の設置などは、各事業所でも協力出来るのではないか。

<通年での取り組み>

- 介護関係では、介護家族と関わる機会が多いため、家族と関係性を築いていく中で、市の認知症施策のチラシを配布することなどは出来る。
- 市報への掲載、市のLINEの活用。
- 会を通して開業医へオレンジ手帳や4コマ漫画のつい立をすすめる、診療所への設置を今後も続ける。
- 50～60代が歯のメンテナンスで来院が多いため、その時に声かけができると思う。
- 旗・横断幕の設置などは、各事業所でも協力出来るのではないか。

<行事などでの取り組み>

- 健康フェスティバルとのコラボ。
- 各地区のサロンの中で出前講座として30分とかでも認知症の話をするとう効果があるのではないか。
- JA婦人部(60代100人規模)医師への質問会(60分)が開催されていて、結構盛り上がっていた。
- 医療関係において、会員は病院所属が多いため、研修で認知症の理解(家族への伝え方)を伝える。
- 公民館講座には50～60代も在籍している。
- ピース文化祭には若年層も来るので合わせて街頭活動してみてもどうか。ポケットティッシュや認知症チェックリストを配布してその場で記入してもらい、回収して一言コメントを返す。

- 介護関係の施設においてオレンジ手帳の配布や総会に家族をまねく、介護保険のことを伝えたりしている。
- 高校の同窓会などに、のぼりをたてるなどして周知する。

<啓発活動の工夫>

- 相談先を伝えていくことが大事なのではないか。気軽なことでも相談出来る場所がたくさんあることを知れるように伝えていくことが大事。
- 認知症に関する教育の大切さ。特別と捉えすぎずに、ちょっとした変化にちょっとずつ対応を変えていくこと。
- 50～60代だったら、親の認知症のサインに気づきましょうというアプローチが必要。
- 認知症という病気になりたくない、怖いという思いがあるため診断を受けたくない人もいる。認知症の診断を受けることのメリットを伝える必要がある。
- 認知症進行予防は生活習慣病予防にもつながるので親子で一緒にできる介護予防メニュー（散歩、食事、調理など）になる。
- 認知症チェックなどであれば50～70代が参加される。（認知症チェックを怖がってやりたくないと思う年代でもある）
- 病気と普通の境目、ポイントを絞って、こういう時は相談に行こうと身近な相談窓口、包括の存在を知ってもらう。
- 情報が目に入るタイミングとしては、のぼり、横断幕、SNS、Youtubeなどから。